

まだまだ寒い日が続きますが、御同行の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

先月からお参りに行きますと、家々に雛人形がお飾りされていて、春の訪れを感じさせて下さいます。戸外に出れば、日差しも暖かくなり、なんとも気持ちが良いです。

子供が五歳になりまして、散歩をしますと、たんぽぽが咲いている。可愛い黄色の花を咲かせて。それを見て子供が、「お父さん、たんぽぽが咲いているよ」と嬉しそうに話しかけてくる。私も「そうだね」と応えます。

しばらく日が経つと、花が実になっていき、たんぽぽは丸い綿毛になります。子供はそれを見て、「綿毛だよ」と喜び、一つ手折って息を吹きかけると、綿毛が空に飛んでいきます。なんだか胸躍る光景です。

あるとき奥さんと歩いていると、またたんぽぽが咲いている。それを見て奥さんが、「また咲いている。種が飛ぶと草引きが大変だ」と嘆いています。私もそれを聞いて草引きの大変さを思い出します。ああ、人は自分の損得でものを見るのだなと思いました。花屋にある花と、道端に咲いている花。どちらも命をいっぱい使って花を咲かせます。どちらがよくて、どちらが悪いというものでもありません。しかし私たちはこうして線を引きます。その基準は私たちの心もち一つではないでしょうか。命を平等に尊ぶことが出来ない私たち。好き嫌いをし、自分に都合のいい人は友人とし、都合が悪いひとは嫌な奴と遠ざける。

そんな私たちに、同じように春の暖かい陽が注いでいるなあと思ったことでした。